

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら 13 案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COG では社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

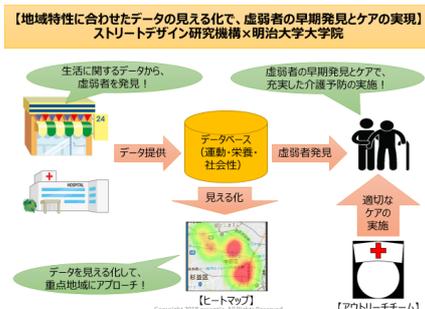
これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 フェーズ 2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

地域特性に合わせたデータの見える化で、虚弱者の早期発見とケアの実現

（応募チーム：ストリートデザイン研究機構×明治大学大学院）

（特徴）

このアイデアは、地域包括ケアの推進が全国で課題になっている中で、その一つの分野である介護予防の強化対策の入口として、虚弱者の分布に有意差がみられればそれに応じて重点的に訪問・ケアを行うというアイデアに特徴があった。このため虚弱者の居住分布をヒートマップ化する必要があるが、これに利用できるオープンデータは厚生労働省の示した基本チェックリストを使った対象が約 3 万人のサーベイ結果のみであった。しかしこれでヒートマップを作ってみても地域差が出なかったというのが現状である。



（アドバイス）

(1) アウトリーチチームのサポートにつながるデータ分析とヒートマップ作製

以上のような状況であるので、区役所の対策として、以下の機能を持つアウトリーチチームによるきめ細かいサービスを展開するため、病院のレセプト情報などを活用した潜在的な要支援者の発見のためのヒートマップの開発を検討されては如何でしょうか。なおその場合、個人情報適切な扱いを施したうえで、不特定多数へのオープンデータに限っている今の COG の前提を広げて一定の範囲に限ってデータを利用し、データ分析などをされることは有益かと思われます。

ア 地区担当（アウトリーチチーム）の体制
日常区民活動圏域を区域として、保健師、児童館職員、事務職及び福祉の専門職 4 人で構成されるチームを区民活動センター（15 か所）に配置
イ 地区担当（アウトリーチチーム）の役割
地域福祉、健康づくり、医療、看護の視点を活かして次の役割
①潜在的な要支援者の発見、継続的な見守り
②地域資源の発見 など

(2) ヒートマップによる見える化対象の拡大

ヒートマップによる地域の各署の特性の見える化は、地域特性に根差したきめ細かい行政サービスの展開あたって潜在的に有意義であることが今回のアイデアづくりでも感じられるところがあります。従って地域包括ケアが対象とする若年から高齢者までを含む各種の活動をヒートマップ化することで、このような施策の地域の特性を踏まえた展開が可能となるかどうかの検証を例えば子育ての分野でも可能かどうかの検討をされては如何でしょうか。